

未来は開かれている：
OpenDocument とは何か、そしてなぜ気にかけるべきなのか

The Future is Open:What OpenDocument is and why you should care

by Daniel Carrera
OpenOffice.org volunteer

オリジナル HTML 版 : <http://www.groklaw.net/article.php?story=20050130002908154>

日本語訳: 可知 豊、可知 美紀子

序文

私は、OpenOffice.org のボランティアである Daniel Carrera に、オープンオフィスフォーマットについて説明してもらおう依頼した。どのようにしてフォーマットは選ばれるのか。また、マサチューセッツ州が作成したような行政機関の使用に受け入れられるフォーマットのリスト

(<http://www.groklaw.net/article.php?story=2005011807275883>)に、OpenOffice.org は載っているのか。もし載っていないのであれば、リストに載るために何が出来るか？彼は快く引き受けてくれた。なぜなら私たちは皆、独占的なフォーマットや標準規格に懸念を抱いているし、より多くの政府がオープンスタンダードを義務付ける方針を適用するようになってきているので、オープンスタンダードはとても重要なテーマであるからだ。

Daniel は、OpenDocument を「独占的なフォーマットによるベンダーロックインと戦う最善のチャンス」と呼ぶ。現在、EU 委員会によりオフィシャルフォーマットの候補として検討されている。なお、この記事は、最後にあるリンクから、OpenDocument を含めいろいろなフォーマットでダウンロードできる。いくつかのブラウザでは、リンクをクリックする代わりに、「名前を付けて保存」をクリックする必要がある。

Daniel Carrera は、メーランド大学の数学科で博士課程にいる学生であり、OpenOffice.org で活発に活動するボランティアでもある。彼は OOO のコミュニティ評議会で「コミュニティ代表」を勤める。Daniel はまた、OOO Authors Project を手助けしており、ほとんどの英語のドキュメンテーションはそこで作成された。彼はサンディエゴで 2 月 9 日に開かれる OOO Region(<http://desktoplinuxsummit.org/agenda.php>)で講演する。また、2 月 9 日から 11 日までサンディエゴで開かれる、オープンソースの現在と未来、そしてデスクトップ Linux テクノロジーについての会議 Desktop Summit 2005(<http://desktoplinuxsummit.org/>)でも講演する。彼は初日に”INREACH, Building an Active Community”(<http://desktoplinuxsummit.org/speakers.php#carrera>)というタイトルで講演する。

すべての講演者のリストはここからリンクしている(<http://desktoplinuxsummit.org/speakers.php>)。これは確かにおもしろそうである。Mitch Kapor と Doc Searls は desktop conference での基調講演者である。Sun の Simon Phipps が OOORegion をキックオフするそうだが、彼は素晴らしい講演者だと聞いている。このリンクからもっと情報を得られる(<http://desktoplinuxsummit.org/event.php>)。座席数が限られており、サイトには 2 月 5 日から値段が高くなると書いてある。

(** Growklaw の編集者 PJ による序文。ここで彼は、Daniel Carrera を彼”He”としているが、本当は女性)

目次

OpenDocument とは何か.....	4
簡単なまとめ.....	4
タイムライン.....	4
EU と Valoris レポート.....	4
選択基準.....	5
中立であること.....	5
技術的なメリット.....	5
幅広く受け入れられること.....	5
最終選考.....	6
OpenDocument vs Microsoft XML	6
レポートへの反応.....	6
Microsoft の Valoris レポートへの反応.....	6
Sun の Valoris レポートへの反応.....	6
The EU TAC の提言.....	6
Microsoft の The EU TAC の提言に対する反応.....	7
Sun の The EU TAC の提言に対する反応.....	7
IBM の The EU TAC の提言に対する反応.....	7
我々はどこにいて、どこに行く必要があるのか.....	8
これは我々が勝利できる戦いである.....	8
OpenDocument が成功するために必要なこと.....	8
あなたにできること.....	9
付記.....	10
参考資料.....	10
付録1 ー 拡大版タイムライン.....	11
訳注.....	12
来歴.....	12

未来は開かれている:

OpenDocument とは何か、そしてなぜ気にかけるべきなのか

OpenDocument とは何か

簡単なまとめ

問題: 次の文を完成させなさい、「OpenDocument とは...」

- (a) オープンな XML ベースのファイルフォーマット。
- (b) OASIS や ISO スタンドアードグループにサポートされているオープンスタンダード。
- (c) 次期 OpenOffice.org 2.0 と KOffice 1.4. のデフォルトファイルフォーマット。
- (d) EU のオフィシャルフォーマット候補で、選ばれる可能性が最も高いもの。
- (e) 独占的フォーマットによるベンダーロックインと戦う最善のチャンス。
- (f) これら全部。

正解は、(f)。これら全部。

タイムライン

この記事は、数ヶ月間の期間に渡って書かれたレポートにリンクしている。話を追いやすいように(特にフォーマットの名前について)おおまかなタイムラインを用意した。

- 1) OpenOffice.org は"OpenOffice.org 1.0"フォーマット というオープンなファイルフォーマットを開発した。
- 2) EU コミッションは、Valoris にオープンファイルフォーマットについてのレポートを委任した。
- 3) "OpenOffice.org 1.0"フォーマットが、OASIS の標準規格として提出された。KDE と Corel は、OASIS 技術委員会(** OASIS Technical Committee)に参加し、幅広いアプリケーションをカバーするようフォーマットを拡張した。
- 4) 新しい OASIS フォーマットは Open Office XML と呼ばれ、OpenOffice.org と KOffice はそれを自分たちの基礎/ネイティブなフォーマットにするのに尽力した。
- 5) Valoris レポートが公開され、Microsoft と Sun がそれに対応した。The European Union TAC が提言を発表
- 6) フォーマットが ISO の標準規格に提案され、名称を OpenDocument フォーマット に変更した。

古い名称で普及させないために、以降は"OpenDocument"と呼ぶことにする。

EU と Valoris レポート

ここで鍵となるのは、EU の Telematics between Administrations Committee (TAC) である。TAC は、より競争力のある市場を作り出そうと、オープンスタンダードを使う可能性を調査するため、Valoris のコンサルティンググループを雇った。

Valoris レポートは、よく調査された徹底的なものだった。彼らは、公認のオープンスタンダードグループにバックアップされた Open XML フォーマットの適用を推薦した。

Valoris レポートは、Open XML テクノロジーが政府の情報システムと要求方針にどれだけ影響力があるかについての非常に詳しい、とても説得力のある報告書である。

78 ページもの報告書をまとめるのは難しいので自分で読んでみることをお勧めする

(<http://europa.eu.int/idabc/servlets/Doc?id=17982>)。Valoris レポートは全編に渡ってよく調査されており、

オープンソースと OpenDocument、そして EU がオープンな市場を目指すことを奨励している。

Valoris グループは OpenOffice フォーマットの開発を綿密に観察し、2004 年の 11 月までには、彼らが持っていた懸念や問題点はすべてひとつひとつ OASIS 技術委員会によって対処された。政府と組織が情報システムの要求方針をどのように決めるのか、Valoris の試みは他に類を見ない洞察を提供している。

選択基準

レポートにおいて、Valoris は既存のファイルフォーマットを余すところなくまとめた。これらは一連の要求と比較された。2 つのフォーマットが適合したので、さらなる検討のために残された。

我々にとって、これらの基準に慣れ親しんでいることは重要である。政府が Open XML フォーマットを採用する前に、彼らが何を要求しているかが分かる。その基準を 3 グループに分けてみた。

中立であること

- オープン: この段階の分析では、Valoris は公共性があり、ロイヤリティーのかからない規格であるという意味での開放性のみを求めていた。例えば、PDF や MS XML はこの要件にかなっていません。
- バイナリがない: バイナリフォーマットは中立であることの障害になる。Windows のコンポーネントに頼っているフォーマットが GNU/Linux や Mac Os をサポートするのは難しい。
- クロスプラットフォーム: 中立であることに対する明確な要求である。

技術的なメリット

- フォーマットを忠実に再現する: これは表示と構造に言えることである。ほとんどのアプリケーションにとって、フォーマットの忠実性は絶対に必要なことである。
- 修正可能なこと: PDF のようなフォーマットを除外する。
- 現在のワープロ機能をサポートする: あなたのデータを表現できないのなら、オープンフォーマットは何の役にも立たない。このリストは Unicode サポート、双向性 (例えばヘブライ語)、スクリプト作成が含まれていた。Abiword と KOffice はこの要件を満たしていません。
- 新たに発生する要件に対応できること: デジタル署名、アクセス権、バージョン管理など。ほとんど全てのフォーマットがこの要求に応えることができなかった。

幅広く受け入れられること

これは奇妙に聞こえる。なぜこのことが重要なのか。そんなことに関係なく最良のフォーマットを選ぶべきではないのか。

答えは単純である: ODA のことを聞いたことがあるだろうか? おそらくないだろう。

80 年代にヨーロッパで Open Document Architecture (ODA) というオープンスタンダードフォーマットを規定しようと試みがあった。それは欧州委員会を含むヨーロッパの公共機関からたくさんのサポートを受けた。ODA は ECMA 標準、ISO 標準でもあった。

しかし、ODA ははじめにも失敗した。

ODA は産業界からの援助が全くなかった。フォーマットが複雑で、企業は SGML や RTF などのより実用的な規格をサポートすることを好んだ。

結論: 産業界の支持が重要だ。W3C が、正常に機能する実装をひとつも持たない規格を決して受け入れられないのはこのためである。

注: 「幅広く受け入れられること」とは、「支配的である」という意味ではない。フォーマットを維持するのに十分な、産業界による採用があるということである。例えば、OpenDocument はこの条件を満たしている。ODA の試みと違い、OpenDocument は、Sun、IBM、HP、Novell、Adobe のようなメジャープレーヤーに支持された 2 つの office suite にサポートされている。

最終選考

全ての基準を完璧に満たすフォーマットはないが、2つのフォーマットが他から傑出していた。

- OpenDocument—主な弱点:新たに発生する要求に対してのサポートにやや不足があった。
- MS XML—主な弱点:忠実性は並であり(**medium fidelity)、クロスプラットフォームかどうか定かでない。

OpenDocument vs Microsoft XML

MS XML が OpenDocument フォーマットより一見優れているように見える点は、カスタム定義スキーマがあることだけだ。一方、OpenDocument はいくつか利点がある。

- よりオープンである:法的な制約がなく、OASIS からのサポートもある。
- 可能であれば既存のオープンスタンダードが再利用できる(SVG, Dublin Core, MathML, など)
- フォーマットへの忠実性が高い。
- XSLT やほかの XML ベースのツールと相性がよい。

レポートへの反応

Microsoft の Valoris レポートへの反応

Microsoft の反応 (<http://europa.eu.int/idabc/servlets/Doc?id=17984>:PDF)は、終始カスタム定義スキーマは本当に重要であると主張し、とにかく読者を説得しようとしている。それしか手段がないようだから、驚くべきことではない。

Sun の Valoris レポートへの反応

Sun の反応 (<http://europa.eu.int/idabc/servlets/Doc?id=17985>:PDF)では、Microsoft の XML へのアプローチに対する懸念が表わされている。全文を読んでみることをお勧めするが、以下にいくつか抜粋する。

- MS XML は、Microsoft Office の全てを含んでいない(例えば、PowerPoint を含まない)。
- MS XML は、新しい Microsoft Office の機能のいくつかをサポートしていない。
- MS XML は、Microsoft Office と Windows に依存するバイナリオブジェクトを含んでいる可能性があり(例えば OLE と VBA)、そしてそれについて完璧なドキュメントがない。
- Microsoft は、公共の利益のために MS XML の改良に取り組まず、現状版を提出したにすぎない(**MS did not commit to make future changes to MS XML available to the public, only the current one)。

The EU TAC の提言

各社の反応の後、EU TAC は最終提言 (<http://europa.eu.int/idabc/en/document/2592/5588>)を作成した。これらも有望な内容である。彼らはファイルフォーマットの重要性を主張していた。

「...公共部門は、フォーマットを処理するアプリケーションにおいて、市場関係者に同等の機会を与えない全てのフォーマットを避けるべきである。特に、市民や企業の側に、製品の選択を強制する可能性があるばあいには...」

Microsoft によるカスタム定義スキーマについての議論に対する彼らの反応は興味深いものだった。この機能が本当に価値のあるものか議論する代わりに、彼らは OASIS に、Microsoft の議論と対等になるよう、カスタム定義スキーマをフォーマットに追加するよう申し立てた。TAC はまた、MS XML とその参照ライセンスは充分にオープンではないことを発見し、Microsoft にいくつか提案した。

OASIS への提言:

- カスタム定義スキーマをフォーマットに追加すること。
- より公式な認可をもらうためそのフォーマットを ISO に提出すること。

Microsoft への提言

- MS XML の将来版を公共に提供し続けることを公約すること。
- 国際標準化団体に候補としてフォーマットを提出すること。
- フォーマットから XML でないコンポーネントを取り除くこと。

その他の同業会社への提言:

- このフォーマットについて、業界内でより広く意見が一致するように、OpenDocument の標準化プロセスに参加すること。
- OASIS OpenDocument と MS XML の両方をサポートするフィルターを採用すること。
- ドキュメントを XML フォーマットに移行するツールを公共部門に提供すること。

一般社会への提言

- 複数のフォーマット、または業界が同意して採用したオープンフォーマットでドキュメントを用意すること。

Microsoft の The EU TAC の提言に対する反応

Microsoft の反応 (<http://europa.eu.int/idabc/servlets/Doc?id=17984>:PDF)では、結局行き着いたのはこういうことである:

- 彼らは、無差別な条件(**non-discriminatory)の下で MS XML の将来版を発行することに合意した。
- 彼らは、XML でないフォーマットの要素を「精力的に」記録すると言ったが、XML でない要素を全て排除することについては合意しなかった。彼らは、OpenDocument も XML でない要素(イメージなど)を持っていると主張したが、OpenDocument ではそれらは別のディレクトリにあり、MS XML では XML タグの全体に組み込まれてることを指摘しそこねた。
- 彼らは、いろいろな種類のフォーマットをサポートすることは重要であるとも言ったが、OpenDocument をサポートするとは言わなかった。
- 彼らは、彼らのライセンス方式は完璧で、しかも「ロイヤリティフリーのライセンス方式は正式な標準と並んで役に立っている」と主張した。言い換えれば:No、彼らは標準化団体に提出しない。

Sun の The EU TAC の提言に対する反応

Sun の反応 (<http://europa.eu.int/idabc/servlets/Doc?id=18016>:PDF)は、あらゆる点で、真にオープンなフォーマットの重要性を繰り返し述べている。彼らは ISO サポートのアイデアを気に入り、そのフォーマットが ISO スタンダードになることを確信している。

IBM の The EU TAC の提言に対する反応

IBM の反応(<http://europa.eu.int/idabc/servlets/Doc?id=18035>:PDF)もほぼ肯定的だった。私には、ほんの少し不安に思うところがある:

「...我々は、[標準となる]技術は制限なく公開されるべきだと信じる(必要不可欠な特許に対する正当なロイヤリティー以外は)...

これについてはよく知らないのですが、かっこ内の事柄が重大かどうかは他の人に決めてもらおう。しかしこれ以外は、IBM は EU にこう報告した:

- 彼らは、OASIS 技術委員会に参加する。
- 彼らは、OpenDocument を採用した製品(Workplace)をすでに提供している。

Workplace は OpenOffice.org コードに基づいているので、最後の部分は驚くようなことではないが、心に留めておくのにいいコメントである。

我々はどこにいて、どこに行く必要があるのか

OpenDocument フォーマットは間違いなく、ソフトウェア特許に次いで FOSS 運動にとって最も重要なひとつのステップである。以下の点で独特である：

- ベンダーロックインという論争の核をばっさりカットできる。
- これは我々が勝利できる戦いである。

これは我々が勝利できる戦いである

OpenDocument フォーマットは、以下の点で成功する現実的なチャンスを持っており、独特なポジションにある：

- 技術的メリット：カスタムスキーマを含むことによって、OpenDocument は、全ての技術的な困難を満たし、超えることができる。
- 採用：OpenOffice.org, KOffice, IBM Workplace, StarOffice。OpenDocument は夢ではない。十分なサポートがついた、現実の選択肢を提示する現実のフォーマットある。
OpenOffice.org はクロスプラットフォームで、ダウンロードとインストールが簡単な、バージョン 2.0 を出荷する準備をしている。Sun、IBM、HP、Red Hat、Novell そして Adobe は、彼らの製品とサービスに OpenOffice.org コンポーネントを含めることで、EU のオープン XML 標準の要件を全面的に支援すると発表できた。OpenOffice.org と KOffice は、どちらもオープンコンポーネントの枠組みを持ったオープンソースであり、その枠組みは、ベンダーの市場全体が、その気になれば簡単に選択できるようにするものである。
- オープンスタンダード：OpenDocument はオープンフォーマット以上のもの、オープンスタンダードである。そして ISO と OASIS という標準化機関に支援されている。企業や製品にコントロールされていない。Sun や IBM、OpenOffice.org や KDE にもだ。Microsoft は対抗したがっているだろうか？
- **OpenDocument** をスタンダードに推進する：EU はオープンスタンダードの方針を推進している。アメリカのマサチューセッツ州も同様である。公文書の標準規格として OpenDocument を推進すべき時が来た。人々は注目している。

OpenDocument が成功するために必要なこと

Valoris レポートは、政府文書の公式規格として成功するオープンフォーマットは、以下の4つの点が必要であることを明確にした。

- 技術的メリット：検討されたほとんどのオープンフォーマットは、重要な機能を欠いていたため最終選考まで行かなかった。いかなる技術的な欠陥も、それがどんなに理論的であっても、それは Microsoft にロビー活動をする機会を与えることになるのだ。
- 採用：採用されなければ成功しない。ODA のケースから学ぶこと。
- オープンスタンダード：なぜこのことがそんなに重要なのか。以前の OpenOffice.org 1.0 フォーマットや KOffice など、どんなオープンフォーマットでもいいのではないか？なぜなら Microsoft が不当な扱いと主張するからだ。んなことは分かっているさ(笑)。それでも、Microsoft はアプリケーションのサプライヤーにコントロールされたフォーマットに対して、効果的にロビー活動できるのだ。

これが、OpenOffice.org と KOffice が基礎的なフォーマットを OpenDocument に切り替えている理由である(それぞれバージョン 2.0 と 1.4 にて)。

- オープンスタンダードのための戦い、標準規格としての **OpenDocument**: オープンスタンダードのための戦いは易しいものではない。成功するためには、政治家と、彼らを選出する大衆の意思の力を必要とする。オープン XML テクノロジーは未来の共同コンピューティングである。しかし、彼らの遂行を妥協させたり、狡猾な特許権と制約的なライセンスでがんじがらめにするような独占ライセンスのやり口は続くのである。

あなたにできること

4つの点に注目し続けて欲しい。では、私たちが必要としていることを見ていこう。

技術的メリット	<p>完了</p> <p>もしフォーマットに重大な欠陥を見つけたら、OASIS 技術委員会かその関係するところに参加すること。たとえば、XML のエキスパートの David Wheeler のやり方を見習ってもよい。David は OASIS のメンバーではないが、彼はいつも討論に参加してくれるし、パブリックフォーラムで仕様を策定するのに貢献してくれる。OASIS 技術委員会は OASIS UBL や W3C XForms グループのような他のオープンな XML 関係の活動との連絡役を続けている。</p> <p>そして、直接仕様に影響を与えるために、多くの OpenOffice.org プロジェクトのひとつを通じて働きかけるといった選択肢が常にある。これには、米国議会図書館のとても複雑な MODS スキーマの要求を完璧に満たす仕様を策定するために、長年熱心に働いた Bibliography と DocBook グループの例がある。</p>
採用	<ul style="list-style-type: none"> • Abiword, Gnumeric, Sodipodi や Inkscape のフィルターを作成すること。 • OpenDocument をサポートするアプリケーションの普及を促進すること。 • OpenOffice.org や Koffice を支援すること。
オープンスタンダード	完了
OpenDocument の推進	<ul style="list-style-type: none"> • EU と MA を、OpenDocument をサポートするよう説得するのを支援する。 • 手紙を書いたり、ロビー活動をする。 • 人々に伝える。そのためにはこの記事を自由に使って結構である。 • 広く情報を持つこと。 <ul style="list-style-type: none"> • Valoris リポートとここにリストされたドキュメントを読むこと。 • もしあなたがカリフォルニアのサンディエゴの近くに住んでいたら、2月9日に開催される OpenOffice.org Regicon (http://marketing.openoffice.org/conference/regicon/)に行って OASIS の Gary Edwards が OpenDocument について語るのを聞くこと。『<i>The Shot Heard Round the World: How OASIS Open Document Changes Everything.</i>』(独立戦争の開始 : OASIS Open Document はどのようにして全てを変えるか) http://desktopsummit.com/topics.php#shot • 上記の講演に参加してレポートを Groklaw に提供すること。

**1 Groklaw HTML 版の追加情報

講演の概要: 2年間の開発期間で、OASIS OpenDocument XML ファイルフォーマット仕様は有名になりつつある。このセッションでは、OASIS 技術委員会が欧州連合 (EU) の次世代インフォメーションシステムの必要条件を満たすため、どのようにファイルフォーマットの仕様に飛躍的な改良を加えたか討論する。XForms, SVG, や SMiL のような改良が、"カスタム定義スキーマ"の必要条件を満たすためには必要だった。ISO (the International Standards Organization) への提出は OASIS 技術委員会

のもうひとつのチャレンジだった。ここでは、MS XML ファイルフォーマットとライセンスは"十分にオープンだ"という Microsoft の EU に対する主張の原動力についても討論する。EU は自分たちの立場を貫いたのだが (**The EU held their ground though)。"オープンスタンダードベースのオープン XML ファイルフォーマット"は、現在 EU が導入を検討している段階 (**purchase cycle) にある。このため Microsoft は、OASIS/ISO ファイルフォーマットを現行の Microsoft Office アプリケーションとして提供するために Sun と連携することと同様に、2004 年 11 月には、今後リリースされるもの (future releases) に関する必要条件に従うと折れたのだ。IBM の WorkPlace のデスクトップ環境は OpenOffice.org のコンポーネントに基づいているため、IBM、Adobe と、その他 150 以上の IBM と提携しているインフォメーションテクノロジーのベンダーもまた 11 月に、EU の必要条件の順守を発表することができた。オープンスタンダードポリシーが採用されるようになったとき (**when open standards policies find their way into the purchase cycle)、市場は想像できる限りのあらゆる方面において競争力を持つようになるのである。もっと重要なことは、オープンスタンダードに基づいたポリシーによってコンピュータ使用者たちは、情報と、彼らが頼っている情報プロセス両方のオーナーシップを持てるようになる。そのことが全てを変えるのだ。

付記

この記事の技術的な精度は OASIS 技術委員会の Gary Edwards チェックしてもらった。最終草案は Jean Hollis Webe が編集した。全ての書き間違いと漏れは私の責任にある。

参考資料

Valoris report および TAC 提言とその反応

<http://europa.eu.int/idabc/en/document/3439>

OASIS Technical Committee

http://www.oasis-open.org/committees/tc_home.php?wg_abbrev=office

この記事は、PJ の記事 (** Groklaw) と同じく、Creative Commons Licen (<http://creativecommons.org/licenses/by-nc/2.0/>) でライセンスされる。Daniel Carrera の連絡先は dcarrera at openoffice.org。

この記事は OpenDocument フォーマット、または OpenOffice.org 1.0 と PDF でダウンロードできる。

- OpenDocument フォーマット : <http://www.groklaw.net/pdf/article2.odt>
- OpenOffice.org 1.0 : <http://www.groklaw.net/pdf/article2.sxw>
- PDF : <http://www.groklaw.net/pdf/article2.pdf>

付録1 — 拡大版タイムライン

この拡大版タイムラインは Gary Edwards によって提供された。

****Groklaw OpenOffice.org1.0** フォーマット版の追加情報

- 1) Sun は、クロスプラットフォームの統合オフィスソフト(**** office productivity suite**)「StarOffice」を買収した。彼らはオープンソースコミュニティ「OpenOffice.org」を発足し、StarOffice の基盤となる全てのコードをオープンソースにした。
- 2) OpenOffice.org は、統合オフィスソフトの複合文書の特徴全てをカバーするオープンな XML ファイルフォーマットを開発した。大量のオフィスワークの情報(****desktop productivity information**)が、「構造化された」ファイルフォーマットとして記述されたのは初めてのことだった。
- 3) Sun と OpenOffice.org コミュニティは、オープン XML ファイルフォーマットの仕様をオープンスタンダードの候補として、OASIS に提出した。
- 4) The OASIS Open Office 技術委員会は第 1 段階の作業を開始し、18 ヶ月かけて、2004 年 3 月に完了した。第 1 段階の作業は企業レベルのコンテンツ管理(****content management**)と出版関連(****publication concerns**)に焦点が当てられた。

貢献者たち(Boeing, Arbortext, Stellent, Documentum, Corel, SpeedLegal, the Australian National Archives, and the International Biblical Society)は、30 年以上の実績を持ち、いまだ生産的なで稼働中のレガシーなアプリケーションとシステムを移行可能にするため、先頭を切って仕様を拡大した。(Boeing, Arbortext, Stellent, Documentum, Corel, SpeedLegal, the Australian National Archives, and the International Biblical Society lead the way in expanding the specification to meet the transformation demands of having over 30 years of legacy applications and systems still on line, and still productive.)

第 1 段階の作業は、拡張性と包括性に焦点が当てられた。ファイルフォーマットの仕様は、レガシーインフォメーションシステムと、急速に進化している将来の出版とコンテンツ管理システムのための一般的な変換レイヤーとして位置づけられた。

- 5) EU は、Valoris に 2 つの懸念について調査するよう任命した。1 点目はオープンスタンダードに基づくインフォメーションシステムについてだ。2 点目は、EU がどのようにしてオープンで高い競争力のあるインフォメーションテクノロジーの市場を創造できるかということである。Valoris は、すぐにオープン XML テクノロジーと OASIS Open Office XML ファイルフォーマット技術委員会に焦点を合わせた。
- 6) 第 2 段階の作業では、OASIS 技術委員会はオフィスワーク用アプリケーション(****desktop productivity applications**)の新たに発生するニーズに焦点を移した。KOffice は OASIS 技術委員会に参加し、仕様をより広い範囲のオープン XML テクノロジーとマルチメディアフォーマットを含むために拡大する研究が本格的に始まった。XForms, SVG, SMiL, Bibliography, UBL, XBR, DocBook のためのイニシアチブ(****Initiatives for ~**)、プロジェクトとコンテンツマネージメントスキーマ、カスタム定義スキーマ、インテリジェントな複合文書(****intelligent compound documents**)、ワークフローの統合、他が研究されている。OASIS 技術委員会は生産性環境(****productivity environment**)の観点から考え始め、将来の共同コンピューティングの要求について考慮した。
- 7) Valoris レポートが発表された。Microsoft と Sun がそれに反応した。The European Union TAC が提言を発表した。
- 8) OASIS 技術委員会が、カスタム定義スキーマの原理(the custom-defined schema fundamentals)を含め EU の提言に反応した。フォーマットは公式な標準規格として ISO と OASIS に提出された。ニュートラルでオープンな精神を持つ EU の要求と、生産的環境仕様の性能の急速な拡大(****the rapid expansion of the specifications productivity environment capabilities**)を踏まえて、OASIS 技術委員会は名称を「OpenDocument」フォーマットに変更した。

訳注

この論文は、OpenOffice.org コミュニティで精力的なボランティアである Daniel Carrera の『The Future is Open:What OpenDocument is and why you should care』の全訳です。

元の論文は、Groklaw (<http://www.groklaw.net/>) に掲載され、Slashdot にも紹介されました(この2つには多くのコメントが付いています)。

翻訳は、Groklaw で公開された HTML 版を中心に行い、そこからダウンロードできる OpenOffice.org 1.0 フォーマット版の情報を一部追加しました。HTML 版には、Groklaw の編集者 PJ による序文と Gary Edwards の講演の概要が掲載されています。また、OpenOffice.org 1.0 フォーマット版には、付録1: 拡大版タイムラインが掲載されています。どちらも役に立つ情報なので、ここではその両方を訳出しました。

この日本語訳版は、オリジナルと同じく Creative Commons Licen でライセンスされます (<http://creativecommons.org/licenses/by-nc/2.0/>)。

翻訳上のコメントは、「**」マークで原文および訳注を示しました。
間違いなど、皆様のご意見をお寄せください。

- オリジナル HTML 版 : <http://www.groklaw.net/article.php?story=20050130002908154>

可知 豊(<http://www.catch.jp/>、catch at openoffice.org)

来歴

2005-02-21	1.01	: 序文の訳注を削除
2005-02-19	1.0	: 本文に合わせてタイトルを「オープドキュメント」から「OpenDocument」に変更
2005-02-12	004	: OpenOffice.org 日本ユーザー会翻訳 ML のレビューを反映。thanks
2005-02-11	003	: 日本語訳を暫定公開
2005-02-01		: オリジナル版が Groklaw で公開